

輝く人とまち 人 つながる可児 —「参画」と「協働」による“市民中心のまちづくり”

## 一所(生)懸命は 素敵なこと



懸命に  
感謝!

陰徳あれば 陽報あり  
(中国故事「淮南子」より)

何事にも  
精一杯を  
極める人こそ  
偉大な人



最後に、可児市人権啓発センターのますますのご発展と、皆様のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

可児市人権啓発センターが設立二十周年の佳節を迎えられたことに心からお喜び申し上げます。この間の地道な活動に対し敬意を表します。

人権は、行政にとってもっとも大切にしなければならぬことのひとつであります。可児市は「人間らしく幸せに生きていくための権利」を市民の皆様と共有し、住みよいまちとなるよう積極的に取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



可児市長  
富田 成輝  
とみだ しげき

センター設立  
二十周年を迎えて

## 目次

- 「設立20周年を迎えて」－ 可児市長 富田 成輝 ..... ①
- 「新年度スタートにあたり」－ 会長 杉山 桂 ..... ②
- 平成23年度の活動と22年度報告のあらまし
- 特集コーナー「子どものいじめについて」 ..... ③
  - 平成23年度「主事業」案内
- コーナー ..... ④
  - ある日その時 **New**
  - 標語・300字小説募集
  - 他

# 平成23年度の活動と22年度報告のあらまし

**目標** 啓発人口 6,000名／年

(本センターの活動に関わり合った人数)

**重点**

子どものいじめは大人と社会  
(家庭・地域・学校)の連帯責任  
(こどものいじめ防止)

**理念** 人は差異・多様ゆえに認め、学び合う人間主義で!

～子どもの幸せは大人たちのぬくもりある自覚から～



## 募集・お知らせ

※お問合せは本センターまで

- 人数 市民約10名(先着)
- 申込み 6月20日～24日(電話:16時迄)
- 場所 アーラ(主劇場)
- 講演会 水谷修氏 12月4日
- 受付・会場整理等
- 展示会(ホワイエ手伝い) 12月4日(日)(9時～18時)
- 年齢不問
- 特典 講演会入場券差上げます(本人外2枚)

## 「人権週間」ボランティア募集

- 募集 若干(市民グループ)
- 主旨 生活に根ざした人権的な活動をするグループ(選考は審査の上)(宗教関係団体除く)
- 特典 一部物品補助させて頂きます
- 申込み 6月20日～28日(電話:16時迄)

## 「ぬくもりグループ」募集

- 募集 若干(市民グループ)
- 主旨 生活に根ざした人権的な活動をするグループ(選考は審査の上)(宗教関係団体除く)
- 特典 一部物品補助させて頂きます
- 申込み 6月20日～28日(電話:16時迄)

今期スタートに際して一言  
ご挨拶申し上げます。  
今年は、本センター設立二十周年となりました。  
これまでの市民皆様方からのご支援・ご協力に、心から感謝申し上げます。  
今後も皆様方と共に更にぬくもり溢れる可児となるよう心血を注いでまいります決意です。  
のでよろしくお願い申し上げます。

会長 杉山 桂

## 新年度スタートにあたり

# 特集

## 子どものいじめについて

～子どもの人権を守ろう～

子ども間でのいじめが増加してきております(本センターでは、より一層いじめ防止のための対応をしていきます)

### いじめによる子どもの権利の侵害

- ① 1 人の人間として、生命や身体の安全を脅かされることなく過ごす権利
- ② 家族や友人との触れ合いを通じて、自由に成長していく権利
- ③ 社会人として幸福に生きていくための基本的な教育を受ける権利

子どもたちによる、こうした人権侵害をする犯罪行為が「いじめ」なのです  
(いじめの心は、「卑怯」<sup>ひきょう</sup>という人としての最悪の心です)

### どの子もしあわせに生きるといせつな子どもたちなのです！

#### お父さん、お母さんたちへ

いじめは他人ごとでなく、親の責任が問われることが多くあります。  
子どもをもつ親の責任として、わが子はどうであるかをしっかり見つめてほしいのです！

#### いじめの定義

(H18年文部科学省見解)

「いじめ」とは「当該児童、生徒が一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。なお起った場所は学校の内外を問わない。

#### いじめの行為に当たるか否かの判断

表面的、形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。

いじめた方が、絶対に悪いということ

けんかはいじめの対象としない



#### 解説

- ① いじめられた児童の立場に立つてとは、いじめられたとする児童生徒の気持ちを重視することである。
- ② 一定の人間関係のある者とは、学校の内外を問わず、例えば同じ学校、学級や部活動の者、児童生徒が関わっている仲間や集団(グループ)などの人間関係のある者をいう。
- ③ 攻撃とは、「仲間はずれ」や「集団による無視」など直接的

に関わるものでないが、心理的な圧迫などで、相手に苦痛を与えるものを含む。

- ④ 物理的な攻撃とは、身体的な攻撃のほか、金品をたかられたり、隠されたりすることを意味する。
- ⑤ けんか(互いに言い争うような、客観的に特定者がわかる争い)等を除く。

★一方、いじめの「行為を憎んで、人は憎まず」が未来ある子ども達への大人としての姿勢でなくてはなりません！

### 平成23年度「主事業」案内 (設立20周年事業)

#### 支援企画

本センター認定ぬくもりグループ  
「可児ここプロジェクト」企画

#### 〈シンポジウム〉

★お母さん、お父さん、お子さまのために  
★お孫さんのためにもお聞き下さい！

#### 弁当の日(食育)

生命を大切に 家族との絆

- 講師: 竹下 和男 氏 (弁当の日提唱者)
- 佐藤 弘 氏 (西日本新聞編集委員)
- 佐藤 剛史 氏 (九州大学院助教)

- 日時: 平成23年6月26日(日) 12時30分～
- 場所: 可児市文化創造センター(主劇場)
- 入場料: 500円

人気上昇発売中 (アーラにて)



#### 公募 (400名)

#### 対象者 (600名)

#### ぬくもり講演会予告

無料

講師決定!

テーマ(仮称)

「いじめの心の奥にあるもの」  
夜回り先生

みず たに おさむ

● 講師: 水谷 修 氏

- 日時: 平成23年12月4日(日) 13時30分～
- 場所: 可児市文化創造センター(主劇場)



あの方がやってくる!

※募集は広報かに10月1日号  
ぬくもり(10月号)掲載

募集期間: 10月1日～11月10日  
公募 往復ハガキ 400名(抽選)

## あふロトの時



## 「石巻」の人たちのこと

★東日本大震災で最も犠牲者が多かった石巻  
★あの震災の中で新聞を作り続けた人がいた！  
また、その昔に日本初・世界一周の歴史をつづった船乗り達がいた！

## ★(その1)

「石巻日々新聞」は、震災直後フエルトペンでの手書き新聞を発行し続けた。「ペンと紙さえあれば新聞は作れる」というそのく明かりの下で書き続けられたのだ！  
この手書き新聞は、この使命に感動した米国「ワシントン博物館」に展示されることとなった。

## ★(その2)

江戸中期の1793年11月の寒い日、米と材木を積んで石巻から江戸に向かう千石船(若宮丸)があった。  
福島沖で嵐に遭い漂流してロシアの無人島に漂着。  
その後助けられて、ロシア皇帝アレクサンドル1世から丁重にもてなされた。

1803年にロシアのナジェージュダ号で外交官のレザノフと共に大西洋から太平洋に抜けハワイ諸島からカムチャツカ半島を南下して長崎港に入港した。11年振りに世界一周のお土産を持って石巻に帰郷したのだ。その船乗りの名は、津太夫・佐平・多十郎・儀兵衛の4人であった。またレザノフも初の露日辞典をなんと石巻弁で著した。

「苦難を耐え抜いた人に勝れるものはないのである。祈る合掌」

編者

## ぬくもりまゆちゃん⑥

〈困っている人を救う事は良い事〉

作：多々／画：miho



(本センターホームページ)

## 可児ぬくもりネット だより

(今週のビタミンから)

## 震災の人々を想う

今週のビタミン 投稿日：2011年3月30日

「東日本大震災」での悲しみを乗り越え復興の芽が少しでも報道されています。

でも、お年寄りの頑張るとの声と子ども無邪気な笑い声が却って心に愛おしく響きます。負けないでください「冬は必ず春となる」のです。

若竹が地面から待ちかねたように芽吹き「竹の子」として伸びどんなに荒れ果てた地面からでも芽を出して立ち上がります。

「脱ぎ捨ててひとふし見せよ 竹の皮」(蕪村)

この詠みのように、哀しみの皮を剥ぎとりながら天高く希望の太陽に向かい復興する息吹が早く来られることを願っています。

竹の根は、地中で全ての根っこが繋がっています。

このように、たとえ一人となっても、また家族・地域の皆が散々となろうとも懐郷の縁の絆が一つなのですから、絶対に負けることなどないのです。心の絆の根っこを深く張り、どんな試練にも耐え勝ち越えた苦勞の人こそ、人権の意である「人間らしく幸せに生きる」権利が最もある人なのです。

## 「船」の精神が心

今週のビタミン 投稿日：2011年4月8日

大震災での多くの善意が日本だけでなく世界中からよせていただいています。

助けには、自助・共助・公助があります。しかし自助と言っても高齢社会の今ではこうしたことさえ、まかりならないこととなります。支えられ、助け合うことが第一であります。

漁師の言葉に、「船い」ということがあります。

船いとは、比較的深い海で船が流れたりしないように、一隻の比較的大きな船のみが錨を下し、この船に他の船が継ぎ合わされて、停泊する様子を言います。

どうしたら、支え合いが可能になるかを教えてくれているのです。

支え合うには、そのことを呑み込めるだけの人・物が大事ということです。人では、他人を大事にできる心根があり、相手を思う互恵(奉仕し合う)・慈悲(同苦し合う)・愛の精神(分かち合う)が必要なのだと思います。この「船いの精神」こそ、海洋国の日本人が大昔から持ち合わせた心なのです。

## 募集

ぬくもり人権啓発「標語と300字小説」

## ●テーマ

いじめ等に対する、人としてのぬくもりを感じられる文面(200字以内)は会話をのける(市内在住の人)

## ●応募資格

はがきの表に住所・氏名・電話・裏に作品(小説1点・標語2点まで)7月12日～9月20日(消印有効)

## ●応募期間

入賞作品数 標語約30点 小説約7点 11月初旬本人通知

入賞発表 小中学生は、学校から人権週間(12月4日～10日)市役所ロビー等で展示、また機関紙「ぬくもり」等に掲載

作品展示 (入賞) 市役所ロビー等で展示、また機関紙「ぬくもり」等に掲載

※入賞者には、表彰状と図書券を贈呈(小中学生は学校から) ●あて先 本センター宛 (本表紙で参照)

## 編集後記(啓発のひかり)

胸が痛む大震災の爪痕多くの犠牲者のご冥福をお祈りします。

本センターでは、4月から役員の改選としてこれまでで尽力いただいた山田・高木両理事に替わり内藤・山本両理事が、また推進員に山崎さんと寺島さんが就任しました。皆、市民の心がより思いやりの心に包まれるようにと頑張ることを誓っています。

(編集者：川手靖猛)